

貧困なくそうキャンペーン2016／日本の貧困を考える学習会

# 「寿町の年越し支援から考える — 日本の貧困問題 —」



日時：11月8日(火)10:00~12:00

会場：港北区社会福祉協議会3F 団体交流室 | (大倉山駅徒歩5分ロイヤルホスト3階)

講師：高沢幸男氏(寿支援者交流会事務局長)

WEショップこうほくでは 横浜市の寿地区の作業所や団体に冬物男性衣料の寄付をはじめて10年近くになります。その後、路上生活者や日雇い労働者が多く集まる寿地区をフィールドワークし、2014年度からは 寿地区で年越しを支える活動(炊き出し、相談窓口の開設、路上生活者の訪問活動等、「**寿越冬闘争**」)にも収益金から寄付をしています。

今回は、路上生活者や寿町に暮らす人々への訪問や相談活動を20年以上にわたっておこなっている寿支援者交流会事務局長の高沢幸男さんにおいでいただき、お話を伺います。

(寿支援者交流会=寿町や野宿生活者と市民社会を繋ぐ緩やかなネットワーク)

今月号の人

「野宿生活者は社会から生み出される」



高沢 幸男さん

—たかざわ・ゆきお—

高沢さんは、寿支援者交流会の事務局長として野宿生活者の人々の支援にあたる多忙な日々を過ごしている。

以前は学童保育所に勤務されていたが、野宿生活者への暴行事件を目撃したのがきっかけとなり、寿町でボランティア活動をしていた仲間に呼びかけ、週1回の訪問から活動がスタートした。現在は職場である寿生活館4階事務所を拠点に野宿生活者の訪問活動・生活相談、交流学習会やさまざまなイベントの企画、通信の発行といった活動に携わっている。一般的には「ホームレス」という言葉が浸透しているが、「野宿生活者」には生活者としての視点があり、生き様を感じられるので、高沢さんは野宿生活者と呼ぶ。野宿生活者の大半は50代の単身男性が圧倒的に多い。2001年2月の調査では野宿生活者の7割近くが安定していた(はずの)労働をしていたが、終身雇用制の崩壊により、収入を得られなくなり、野宿するようになったと考えられる。また、野宿生活者に対してエアガン等を使った襲撃事件が増している。高沢さんは襲撃する側にもさまざまな問題を抱えている事も多く、行為としては許せないが、いちがいに彼らを責められないという。弱い者がより弱い者を叩くというのが、いまの社会の構図。野宿生活者を生み出す社会を根本から見直す時期が来ている。また民間も積極的に政策提言を行っていくことが必要だと語られた。